

日刊 動労千葉

87. 3. 24

No. 2508

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五、六（公衆）〇四七二二、七二〇七

退職者激励会 1986 新たな人生をひらかれる 動労千葉魂で



三月十六日、十三時半より、千葉駅ビル・大ホールにおいて、一九八六年度退職者激励会が本部執行部、OB会、各支部代表の参加のもと開催されました。

労働者としての生き方を大切に

——中野委員長——

山口副委員長の司会のもと、あいさつにたった中野委員長は「分割・民営化攻撃の嵐の中で動労千葉は国鉄労働者の誇りを失わずにここまでこれたことは皆さんの団結の賜物であると感謝している。労働組合つぶしの攻撃は労働者の魂まで奪いとるものとしてあった。今日、この場で皆さんと和気あいあいやれるとは予想もなかった」「残る者も、残念ながら職場を去る者も国鉄生活の中で培った労働者としての生き方・魂を大切にしよう」

「動労千葉はこれからも労働組合運動の歴史上なかつた取り組みをやりたい。そのためにも退される諸先輩に協力をお願いしたい」とあいさつしました。

共に闘った、あの気概を

——OB会 関川事務局長——

続いて、OB会を代表して関川事務局長が「今日、退職される方の顔を見て、この人も、あの人が、と感慨ひとしおのものがある。私が委員長当時、動労『本部』との組織争闘戦の中で共に闘いぬき苦勞した仲間が職場を去る。あの時の苦勞はどう

なったのかと思う時、退職される方が敗北感でやめていくのではないと知り、大変心強く感じている。

退職される方は新しい人生を歩まれているが、共に闘ったあの気概を生かして頑張っている」とあいさつされました。



60年度退職



元・成田支部長 日暮明氏

前進してほしい

そして、多くの退職者を代表して、日暮明氏より「退職者は敵の超反動攻撃のもとで組合員として悩み、苦しんだが、組織を守りぬき、今日をむかえ、私達は本当に幸せだ。退職者も現役も団結を崩さず前進してほしい」と力強い決意がなされました。

水野副委員長の音頭で乾杯を行い、歓談に入り、和気あいあいのうちに会を終了し、布施書記長の団結ガンバローをもつて互いの健康と発展を祈りつつ散会しました。

交渉速報

年度末手当交渉

(三月二十三日 二十(時))

- (1) 支払日：三月三十一日以降準備出来次第
- (2) 支払額：基準内賃金(婚姻加算を除く)×〇・三九五分
- (3) 支払範囲：一九八七年三月三十一日現在職員、及び二月二十八日以降退職又は死亡した職員
- (4) その他の取扱いは従来どおり